

SSH生徒研究発表会 海南高校がポスター発表賞



県内初の受賞を喜ぶ海南高校科学部の3人

文部科学省ほか主催「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）生徒研究発表会」が八月三日、四日に横浜市で開かれ、「海南高校周辺におけるツメレンゲの分布に関する研究」を披露した同校科学部がポスター発表賞に選ばれた。同賞受賞は県内初。部員の南川絃輝さん（二年）は「絶滅が心配されるツメレンゲが海南の街中に生息している。これを残して後世に伝えるための研究を今後も続けたい」と張り切っている。

SSHは理数系教育をとめて披露。十八校がポスター発表賞に輝いた。今年、研究した同校科
重点的に行う高校で、今、スター発表賞に輝いた。メレンゲは、環境省のレ
年の研究発表会には全国、今回、研究した同校科、ツドデータブックで準絶
百二十四校が参加した。学部メンバーは市川研太、減危慎様に指定されてい
各校がブースを設け、研部長（二年）と南川さん、る多肉植物で、海岸に近
究の成果をポスターにま、中谷崇人さん（一年）。い岩石地に生息するが、

絶滅危機のツメレンゲ研究

同市では黒江地区などに残る古い家屋の屋根瓦や雨どいで見られる。三人は黒江、日方、名高、船尾、大野、井田地域を歩いて丹念に調査。五月から七月まで三カ月かけ、三千四百二十二株を確認した。地域別に見ると、黒江で二千株以上、名高、日方で五百株以上。環境別では黒江に残る岩石地で約千五百株と半数近くを記録した。一方、屋根の上が約九百株、雨どいが約四百株で、さらにコンクリート壁、石垣、道ばたなど民家とその周辺で多く見受けられた。研究発表会では、見学に来た審査員に三人が説明。中谷さんは「ツメレンゲを知らない人もいる」と思い、どんな植物なのかから分かりやすく紹介するよう心掛けました。説明の順番を間違っしてしまいました。賞に入っ

移ったのか、疑問が残っており、市川部長は「昔は植物を売る店がなかったため、身近にあったツメレンゲを園芸植物として植えたのではないか。瓦の下に敷いた赤土に種が混じっていた可能性なども含め、引き続き調べたい」と話している。

今年七月の粉河祭に始まり、紀州よさこい祭り&紀州おどり、紀の川市民祭り、いわで祭りと「日本の夏」を満喫した。特に印象深かったのが友人と初めて訪れた本場高知の

り子の鳴子の音が響き渡り、沿道から声援が送られる。踊りのパレードは信号待ちの間もその場で演舞を続け、青になると走って追いかけて列に合流。祭りが地域に浸透している